

第9期宇治市生涯学習審議会 会議録

名 称	第9期宇治市生涯学習審議会 委嘱状交付式及び第1回審議会						
日 時	令和元年6月27日(木)午後2時~4時						
場 所	生涯学習センター 2階 一般研修室						
出席者	委 員	○	内田 徹	○	佐藤 るり子	○	林 みその
		○	奥西 隆三	○	杉本 厚夫	○	藤林 弘
		○	木村 孝	○	永井 久敬	○	向山 ひろ子
		×	切明 友子	×	長積 仁	○	森川 知史
		○	桑原 千幸	○	中本 裕也	○	六嶋 由美子
		○	小宮山 恭子	○	西山 正一		
	事 務 局	○	岸本 文子(教育長)				
		○	伊賀 和彦(教育部長)				
		○	上道 貴志(教育部副部長)				
		○	市橋 公也(教育支援センター長)				
		○	福山 誠一(教育支援課長(兼)青少年指導センター所長)				
		○	久泉 昭人(生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長)				
		○	宮本 義典(生涯学習課副課長(兼)生涯学習センター主幹)				
		○	深澤 博文(生涯学習課生涯スポーツ係長)				
×		高橋 紀子(生涯学習課事業係長(兼)生涯学習センター主査)					
○		上田 敦男(生涯学習課生涯学習係長)					
○	森川 円(生涯学習課生涯学習係主任)						
×	太田 悠(生涯学習課生涯学習係主任)						
委嘱状交付	岸本 文子(教育長)						
傍聴者	1名						

会議要旨は、下記のとおりである。

1. 委嘱状交付式

➤ 委嘱状交付

岸本教育長より、委員に委嘱状が交付された。

➤ 宇治市教育委員会教育長 挨拶

➤ 委員、事務局職員紹介

2. 審議会の開催

➤ **宇治市教育委員会の体制について**

(事務局)

教育委員会は、教育総務課、学校管理課、生涯学習課、教育支援センターで構成されており、教育支援センターの中に、学校教育課と教育支援課が構成されている。

当審議会の事務局である生涯学習課は、生涯学習係、事業係、生涯スポーツ係の3つの係があり、当審議会事務は、生涯学習係が担っている。

➤ **宇治市生涯学習審議会の概要について**

(事務局)

当審議会は、任期2年間で全12回、偶数月に会議を開催する予定である。

委員の皆様には、会議で議題について協議をしていただくほか、各種計画の進捗管理等をしていただく。

会議への出席のほか、社会教育委員の各種研修会、および大会への出席、その他行事への出席もお願いしている。

議題については流動的であり、前期においては、教育委員会からの諮問があったため、報告書ではなく、答申という形でご意見をいただいた。

今期の審議内容は、本日の協議事項で検討していただきたい。

➤ **委員長選出、委員長職務代理指名及びその他の委員への就任について**

宇治市生涯学習審議会条例第5条の2の規定により、委員の互選で杉本委員が委員長に選出された。また、宇治市生涯学習審議会条例第5条の4の規定により、杉本委員長が、向山委員を委員長職務代理に指名した。

市の各種審議会等の委員の就任について、以下の通り確認を得た。(委員名は五十音順)

- スポーツ振興部会委員：木村委員、杉本委員長、西山委員、藤林委員
- 宇治市ジュニア文化賞等選考委員会委員：杉本委員長、六嶋委員
- 第15期紫式部文学賞イベント実行委員会委員：小宮山委員
- 宇治市明るい選挙推進協議会委員：内田委員、中本委員
- 山城地方社会教育委員等連絡協議会理事：向山委員長職務代理

➤ **審議会の会議の公開について**

事務局から、審議会等の会議の公開について説明し、第1回審議会から公開することが決定した。会議録は行政資料コーナー及び市ホームページで公開される。また、毎回審議会の開催については5名まで傍聴を受け付け、傍聴については、事前に市政だより、市ホームページ、行政資料コーナーで告知される。

3. 報告事項

➤ **第43回宇治市障害者スポーツ大会について**

(事務局)

第43回宇治市障害者スポーツ大会を、令和元年6月15日(土)に西宇治体育館の多目的アリーナで開催した。

参加者は467名、役員はボランティアスタッフ49名を含め89名、合計556名の参加があった。

また、来賓として、当審議会の奥西委員、木村委員、佐藤委員、永井委員、西山委員にご出席いただいた。

➤ **令和元年度山城地方社会教育委員連絡協議会総会**

(事務局)

6月14日(金)13時半から16時、精華町むくのきセンターにて令和元年度山城地方社会教育委員連絡協議会総会が開催された。平成30年度の事業報告、決算報告、令和元年度・2年度の役員、令和元年度の事業計画案、予算案などの議事のあと、「青少年の健全育成 地域で何ができるか」をテーマに講演があった。講演は2部構成になっており、パート1は「スマホ・ケータイから子どもを守るために」～周囲の大人に求められること～と題して、NTTドコモ認定スマホ・ケータイ安全教室の講師による講演。パート2は「意外と身近な薬物乱用」～子ども達を守るために家庭でできること～と題して、山城南保健所環境衛生室衛生担当の稲垣氏による講演。当審議会からは、内田委員、木村委員、森川委員の3名にご参加いただいた。

(委員)

委員の任期に伴い、会長が森川先生から重松氏へ交代された。

重松会長が挨拶で「私は何十年も社会教育委員をさせていただいているが、いまだに社会教育が何かということについてわかりません。」ということをおっしゃった。そのような話を聞くと、「これでいい。」と自分自身も納得できた。

スマホに関する講演は、各所で開催されている内容と同じであったため、知っていることであった。薬物乱用の話は、15分ぐらいで簡単に説明いただいた。

(委員)

まずスマホの使用に関して、今は小さな子どもに持たせる場合は、有害なサイトに入らないようフィルタリング機能を使用することと、家庭内でルールを作って使うことを推奨された。けれど、今の子どもは我々より遥かにスマホに関しては詳しく、逆にこちらが子どもから教えてもらうことがあるくらいなので、子どもたちがどの程度ルールを守れるのかという疑問を感じた。

それから、薬物乱用に関しては、先日、とある別の会議で薬物に関して京都府警の話を聞く機会があった。今の時代、小中学生が大麻について軽い気持ちで悪い意識を持たずに友達同士で受渡し、それを吸うという事例があるとのことであった。スマホに関しても薬物に関しても、親がどこまで監視すべきなのか、あまりがんじがらめに監視してしまうと

今度は逆に子どもから反発が出てくることにもなり、非常に難しい問題だなと感じた。

(委員)

総会の会長挨拶では、次のことに言及したく話をした。人を孤立させない、自分も孤立しないということが一番大事だが、他に助けを求めるといことがいかに難しいかという点である。特に社会的な地位が高い方が助けを求めるとは非常に困難であるため、その点は考慮していただきたく話をさせていただいた。

4. 協議事項

➤ 今期の審議事項について

(委員長)

第8期は諮問に対して答申を出すという形で進めてきたが、今期は今のところ諮問がないので、我々で今何が宇治市の生涯学習にとって必要なことかを考えていきたい。つまり、今期の最後に当審議会として報告する中身について、一から皆さんと一緒に作り上げていきたい。

そこで、まず具体的に、委員の皆さんが所属している機関・団体が抱えている課題を出していただきたい。そこに、全体として共通するものが見いだせれば、それをテーマにしてはどうか。

(委員)

私は宇治市連合育友会に所属している。皆様もご存じのとおり、“PTA離れ”が叫ばれているところである。昨年度は会長、今年度は顧問という形で関わっており、その経験を含めて話したい。PTA活動について色々な方の話を聞いていると、賛同して活動すること自体が嫌ではなく、義務的にやらないといけないような印象が、強くマイナスとして作用しているように感じている。また、「何をやっているのかよくわからない」「初めて聞いた」といったこともよく耳にした。“情報をどのように届けるか”ということについては、紙等の媒体を使い伝えていたつもりではあったが、色々なプリント類に埋もれてしまい、きちんと届いていなかったのではないかと考えている。今は手段の一つとして、インターネット等も使い積極的に情報を伝えている。宇治市連合育友会がどのような活動をしているのかということをもっと広く公開していくことが、問題解決のひとつの手段ではないかと思いつけている。

この取組により情報を得た人が、自分に合った物を選び、自主的に参加しようという思いが出てくれば良い。その結果、人と人とのつながりなど、自分達にもプラスとなるところがあるので、そういった点に関する情報発信等、どうやってうまく伝えていけるのが課題であると思っている。

(委員長)

情報発信の中身については何か検討されているのか。

(委員)

例えば、先週末に山城地方で開催された HUG フォーラムに関する情報発信では、講師の方と事前にどういった話をされるのかについて打ち合わせをして、タイトルだけではなく何を話されるのかという具体的内容や、講師のバックグラウンドを伝えたということはある。

(委員)

我々がやっていることをどう発信していけば良いかについては、常に課題である。情報発信をしても、相手が我が事として受け止める意識がなければ、結局は全部埋もれてしまう。本当に伝えなければならないことを的確に届けるにはどうすればよいのか、“伝える力”がいつも議論となる大きなテーマである

また、“社会教育とは何か”という事に関して、委員自体も常に試行錯誤しておりなかなか答えは出ない。地域の人達に我々のしていることを伝えるためにも、考えておかなければならない必要なテーマである。

(委員)

P T A や地区委員等、どのような団体でも後継者不足が起こっている。そこではやはり、どのように自分達のやっていることを知ってもらうかということが大きな問題となる。情報発信の方法として、やはり紙で知らせないと読んでもらえない反面、たくさんのロスもある。頭が痛い所である。

(委員)

我々が情報発信を通して伝えていきたい中身がなかなか伝わらない。

(委員)

取り扱うテーマとしては、非常に重たいものかもしれないが、“孤立”を一体どう防げばいいのかということについて関心がある。先日、「超孤独死社会」という特殊清掃員の活動が報告されている本を読んだ。特殊清掃員とは、発見されずに腐乱してしまった死体の処理をしている業者のことで、その方々取材することで一体社会で何が起きているのかを知ろうとした本である。この著者は、「他人事ではない、いつ自分もそうなるかわからない。」という思いで取材をされている。

“孤立”の極限状態がこの見捨てられた死体になることであり、“孤立”を一体どう防げばいいのか、人を孤立させないよう一体どうすれば人は繋がっていけるのかということについて議論をしたいと思っている。

また、周りの人が手を差し伸べることが、本人を孤独・孤立へ追いやっていくという心理劇が描かれたドラマがある。つまり、協力者がいれば孤立なんて起こらないというのは思いこみであり、手の差し伸べ方によってはその人を孤立させていくこともあるというシ

ヨックな内容であった。そこからは、安直に人を繋いでいく方法だけ考えれば孤立を防げるわけではなく、今の社会の人間関係というものをもう一度根本から考えないといけないという問題提起がうかがえる。

この二つの視点から、”孤立“という事について議論してみるのはいかがでしょうか。

(委員長)

非常に重いテーマであると同時に、身近な問題である。どのような支援をするのか、そのあり方について考え、真剣に向かい合わなければいけないテーマだ。

(委員)

健康生きがい課の事業で、75歳以上の一人住まいの方を訪問した。ご近所づきあいについて尋ねると、女性の方は、「あります。」と答えられるが、男性は、「ない。前の会社の連中と付き合っている。」と答えられる。やはり男性が地域に出にくいということは明らかである。8050問題の中でも、男性のひきこもりがたくさんあるようだ。また、今後若い方のひきこもりが増えてくる見込みであると言われている。

このような状況からも、社会全体で皆が地域等に参加できるような環境づくりが必要となっているのではないか。

(委員)

8050問題からも、今後、孤立死する方がものすごい勢いで増えるだろうということは言われており、社会的大問題である。社会教育としても、扱わなければならないテーマではないか。

(委員)

私はシニアとしてサッカーをしており、他府県や他市町村に遠征に行くことがある。すると、ほとんど天然芝や人工芝である。今や人口芝グラウンドのコストも安くなっている中、宇治市はなぜ芝生のグラウンドがないのかと言われる。特にここ数年、遠征に行く度に芝生のグラウンドは増えており、土でやることもなくなった。そんな中、他府県・他市町村から宇治市に来てもらうのが恥ずかしいのが現実としてある。

サッカーに限らず、ニュースポーツに関しても土でスタートするよりも人口芝の方が定着する確率も高くなる。当然、生涯スポーツという点で考えても長く継続するために必要なものではないだろうか。

(委員長)

人工芝等の設備を含め、スポーツ環境が本当に一般市民のためになっているのかどうかという問題である。競技志向になっており、そのような人たちだけが使えるものになっていないか、そういうことも含めてスポーツ施設を見直すこと、市民スポーツが非常に盛んになってきている中、更に広げていくための環境作りがどこまでできるのかということも

ひとつのテーマだと思う。

(委員)

スポーツの話に絡めて言うと、私は武道をやっており宇治市に武道館が無いことも問題だと思っている。他市町村にはある。武道は基本裸足で正座し、床の上でおじぎや礼をする。武道館には神様が祀られているため、道場の出入りの際には必ず礼をする。シューズで競技をしている団体と同じ所でやると、床にシューズの跡がついており残念な気持ちになる。これは武道をする者としての要望である。

今回この審議会のテーマとして、今非常に関心があるのは、子どもの虐待や育児放棄である。戦後とは違い、これだけ充実している世の中において、なぜそういう事件が起こるのか。悲惨な事件が連日のように報道されているが、おそらくニュースにはなっていない事案が数えきれないくらい、起きているのではないか。

第2期では「親教育(親になるための教育)の支援を考える 子育て世代(20~40代)の生涯学習」というテーマを扱っているが、再度考えてもよいのではないかと思う。

(委員)

私は今、民生委員をしており、0歳からの子育て支援で、お子さんやお母さん方を対象とした広場を実施している。そのように関わっても、学校に入ると学校教育に移る。

私たちは0歳から死ぬまでの間ずっと社会教育だと思っているので、途中で学校教育が入ってきて社会教育から離れてしまうことに違和感がある。しかも、中学校ぐらいで不登校やひきこもりになると、社会教育が関わる。途切れ途切れの関わりになっているのではないか。もっと社会教育が学校教育の場でも関わり連携することで、一生寄り添って進めないものかと思っている。

(委員)

学校として、民生委員には助けていただいている。先ほど虐待の話があったが、ネグレクトの場合は、まず学校に子どもを送り出してもらえない、送り出す力が少し弱い親も増えてきた。また、学校に来て、家でご飯を食べさせていないこともある。そのことについて話をしようと思えば親を呼んでも来てくれない、話をしたいと思うが会えない現状がある。このよううまく進まない中で、民生委員には様子を見に行ってもらい、声かけもお願いしている。

(委員長)

以前から、学社連携や開かれた学校が目指されており、学校が地域の人たちとどうつながるかという取組が展開されている。例えば、スクールソーシャルワーカーや、ひきこもりや虐待の問題も含めて学校と地域が一緒になって取り組むという動きが全国的には広がっている。宇治市における学校教育と社会教育の連携が、これからのひとつの課題にもなる。

(委員)

私は、子ども達を集めて朗読劇を発表している。以前は持ち物や場所の変更等急な連絡は事務局が一人一人個別に電話していたが、今は参加者のグループラインで行っている。便利になったが、欠席の連絡もラインで安易にしてくることに困っている。電話で休みの連絡を入れていた時は保護者にも申し訳ない気持ちがあったのだろうが、ラインでは安易に感じてしまいそれが伝わらない。今は、欠席連絡は電話ですることとしており、あえて不便なことで少しストレスを感じてもらえたらと思っている。

(委員長)

一時、居酒屋さんのドタキャンが多くて社会問題になっていた。安易な考えで物事が進んでいることに警鐘を鳴らさないといけない。便利なものが出てきて、何事も簡単にできるようになると、手間暇かけるということの意味をはき違えたりする。便利な社会が、いわゆるコンビニエンスな社会が、社会の人々の環境を崩しているというところがあるかと思われ、重要なテーマである。

(委員)

先ほどの超孤独死社会の本の最後に、一体どのような打つ手があるのか書いてある。その中には、スマホ等を使うことも載っている。スマホは緊急事態では、役に立つ。けれど一方で、より便利になるにつれて人間関係が薄れていっているという両面を我々は考えないといけない。便利さが持っている怖さを、社会教育としてよく考えて広めていかなければならないのではと思う。

(委員)

あるものをなくすのは非常に難しい。特にスマホに関しては、親世代がすでにデジタル世代として育っているので、非常に難しいのではないかと。利用を阻止するのではなく、こういう良さもあるという視点で社会教育の側から提案することは可能だろう。最近話題のたき火の良さも一緒である。時間の流れが違う空間を準備するとか、そういった体験を少しでも若い世代あるいは親世代に提供していくのがひとつの手段なのかなと思う。

(委員)

地域の会議に出席すると、会社に勤められていた方が議長をされており、村の話を会社組織でのやり方で進め、細部についてなぜなぜと批判していくことがある。会社では当然のように使ってきた言葉も、村では通じないこともある。村の人に分かるように言い換えることはできないようだ。それに加え、否定することから物事を進めていく、相手を打ち負かすことが優秀と思っている傾向があり、寛容的な部分がない。

退職後、社会貢献をしたい人はたくさんいるだろう。しかし男性は、テレビと電話の受信体制を作るだけで、外へ出て皆とひとつのものを作って楽しむということはなぜかしない。会社で団体生活をしてきたから嫌になっているのか、個人生活を尊ばれる。防災の講

演会に出向いた際も、8割が女性である。時間をかけて準備するという事を嫌がり、当日来て楽しむのみの人が多い。お祭りでも運動会でも、何か月も前から準備を始めるが、それは本部役員だけの仕事になっている。会社で上役を務めた方は、指導力や地域を引っ張るリーダーとしてのノウハウを持っているので、何とか引き出したいところである。

(委員)

私が住んでいる地域では、町内で親父の会を作られている。この町内会は、運動会や様々な事を煩わしさからやめてきた地域である。しかし今退職された男性が中心となって活動を積み上げている。そこに参加しておられる男性は、職場で蓄えてきた力を発揮しておられるなど感じることもある。

このように、自分の周りには色々な活動に参加している方がたくさんおられるので、まなびんぐ等での発表や市内の活動をまとめて広報する等、市内の生涯学習活動をもっと知らせて、みんなのヒントにできるような形に持っていけたら良いだろう。

また、私は図書館関係の活動をしているが、市民としてはもっと協力できることもあると思っており、第1期の「参画・協働の生涯学習社会を目指して 宇治市における生涯学習の進行方策について」というテーマにも関心がある。

(委員)

まなびんぐの実行委員では男性の方が多く、事前準備等、力仕事はもちろん率先して動いてくださるので助かっている。

一方、歌の活動の方は女性の方が多く、男性は少ない。自由参加で来ていただき、楽しく歌って発散するという活動なので、男性にももっと来ていただきたい。参加者にお声かけすると、中には次の回にご主人と一緒に来られる方もいる。ということは、やっぱりちょっとした声かけを誰かにしてもらおうと男性の方は参加しやすく、行ってみようかなという気にもなるのだろう。そういった横のつながりから色々な活動に参加する男性を増やせるのではないかな。

(委員)

毎年、この季節に城南衛生管理組合の清掃工場に小学校4年生が見学に来るので、ボランティアでガイドを11年続けている。最初はボランティア15人くらいで始まったが、気が付けば3~4人になってしまった。毎年、3市3町の学校50校以上のガイドをしているが、とても3人では回らない。現役を退かれた男性が参加していただければ、子どもたちにとっても良い効果はあるが、どうやってこれを伝えればいいのか難しい。先ほどのお話にあったように、現役を退かれた方が家におられたり様々な場所で活動されている方々に、こちらを見てもらう方法はないのかとずっと悩んでいる。学校の先生や学識経験者の方にも相談して勧誘しているが、なかなか参加にはつながらない。

それと、昨日ニュースで、この一年で子ども食堂が全国で1.6倍の数に増えたという報道があった。このニュースは、単純な美談ではないと思っている。以前、週に一回、たこ

焼きを小学生に振る舞う人のニュースもあった。小学生は10円だけど、お金を持っていない子も食べられるように、箱の中にげんこつで手を入れてお金を落とすシステムであった。子ども食堂もたこ焼き屋も、どちらも心意気だけでやっているのではないだろうか、親はラッキーだと思っているのではないだろうかと考えてしまう。

ネグレクト等子どもに感心のない親にすれば、安くでご飯を食べさせてもらえるという考えの人も多いかもしいないと思ったときに、これを心意気だけで続けていいものなのかと感じている。実際に、目先のお腹を満たす、人と触れ合うという意味では子どものためになっているかもしれないが、本当にそれでいいのかという事を最近考えている。親はこの先、子どもに対する恩恵がなくなった時にどうしていくのだろうか。宇治にもいくつか子ども食堂があり、それを頼りにしている子どもたちやお母さんもいるだろう。しかし、子どもが健全に大人になるために、このままの方法でいいのかという事について考えている。

(委員長)

最後のご意見が、今まで皆さんが課題としてあげてくださったものを、集約しているのではないだろうか。

我々のやることは子どもにとって大きな意味がある。子ども食堂でご飯を食べさせることが目的ではなく、その背景にある問題を解決しないといけない。親が食事を与えない、子ども自身が自分で食事を作ることができないという問題である。私も子ども食堂を何ヵ所か回ったが、子どもがお客さんになっているという印象であった。それで子どもが自律するのだろうか。先ほどの民生委員と学校の問題もそうだが、福祉と教育のはざままで社会教育は揺れ動いているのではないか、という感じがしている。

これから生涯学習を考えるにあたって、我々はローカル(地域)ではなくリージョナル(文化の広がり、集まり)として考えていかないといけない。

食文化をとおして、我々は何を子ども達や大人達にメッセージとして伝えていくか。福祉と教育はどこを補い繋がって、子ども達あるいはそれを取り巻く大人達を変えていけるのかということは、大きなテーマである。後継者の問題も孤立の問題も、全部福祉が担当して事業を実施しているが、それが果たしてその人にとって、生きる事の意味をもたらせるものなのかという点が疑問である。事業等を通して我々は何が教育できるのかというところが、大きなテーマになってくる。本日委員の皆さまに話していただいたことも、そういう点で共通するのではないだろうか。

今期のテーマについては、職務代理と事務局を交え今日の話を整理し、皆さんのおっしゃった課題が宇治市の中の課題としてどれだけあるのか、実態的な調査も含めて、進めていくことについてご了解いただき、次回はその方向性みたいなものをご提案できればなと思う。

5. その他

- 令和元年度京都府社会教育委員連絡協議会総会

(事務局)

令和元年度京都府社会教育委員連絡協議会総会は6月28日(金)京田辺市中央公民館にて開催。出欠は取っており、公用車ご利用でご参加の委員は、昼食をとって、宇治市役所議会棟前に12時25分にお集まりください。

➤ **アクトパル20周年記念事業について**

(委員)

アクトパルの20周年記念として、二つの事業を実施する。

一つは、幼い子ども達のための遊具を設置するため、皆さんにご協力いただきたく、クラウドファンディングを実施する。

もう一つは、7月13日に、もっとのんびり生きようよというテーマのもとに、生涯学習センターでシンポジウムを実施するので、ぜひご参加いただきたい。

• **最後に**

(委員長職務代理)

本日は、委嘱状もいただき、これから新しい二年間が始まる。そして新しい方々をお迎えして活発に議論を進めていきたい。今日も大変良い意見が出た。この審議会は、話しやすいのが唯一の特徴なので、これからもこのようにして、皆さんと一緒にやって行きたい。

また次回、よろしく願いいたします。

< **次回の会議について** >

令和元年8月30日(金)午後2時00分から 生涯学習センターにて